

この講座に通うのは教会に通うような。。

田村 絵美子(ユニ・チャーム メンリツケ株式会社)



後期 14 回目は、「銀行員だったからこそ見た日本の精神科病院の不可解・不条理」長谷川利夫先生。神奈川担当だった頃、山の中にある精神科病院でサイレンが響き渡る中、病院職員が棒を手に患者さんを追い回す光景に出会ったことが

ある。「逃げたぞー！」という怒鳴り声にはほんとうに驚いた。

看護師さんたちはみんな気のいい人たちだったし、いつもは静かでウグイスのさえずりにほんわか。排便障害の方にはラベンダーの香りの足浴を取り入れたりも。

でも時に狂気が現れる。精神を患う患者さんののではない。棒を振りかざして脅したり（殴るところまでは幸いにも見なかったけれど）、「なぜ外にでられないの」と迫るひとを振り切り隔離室のドアに容赦なく鍵をかけたたり、身体拘束ベルトでベッドに縛り付けたり。昼間、外部のワタシが病棟にいるときでさえそうだとしたら、夜はどんなことになってしまうのか…

神奈川でも沖縄でも、精神科病院だけでなく特養や療養型病院でも似たようなことはあって、相応の事情があるはずと自分を押し殺してベルトに鍵をかけたこともある。羽交締めにしてオムツ交換をする場にも立ち会った。現場を離れた今、せめて後輩には人として正しい判断を心でして欲しいと願いながら社内教育の仕事をしているけれど、もしも明日、その場に置かれたら強い心でいられるだろうか。

いや今は長谷川先生の話聞いたばかりだからきっと大丈夫。でも情報に晒されることがなくなったら、その場の雰囲気気圧されてしまうかもしれない。

ああ、ほんと。この講座に通うのは教会に通うのとおんなじ。